

郷長の役所

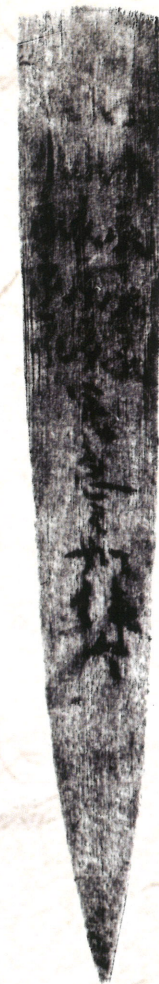
北方田中遺跡

調査では、奈良時代末期の掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}11棟、平安時代の掘立柱建物14棟をはじめ、溝跡や四脚門跡^{しきやくもん}、鎌倉時代の井戸跡3基、道路状遺構などがみつけられました。

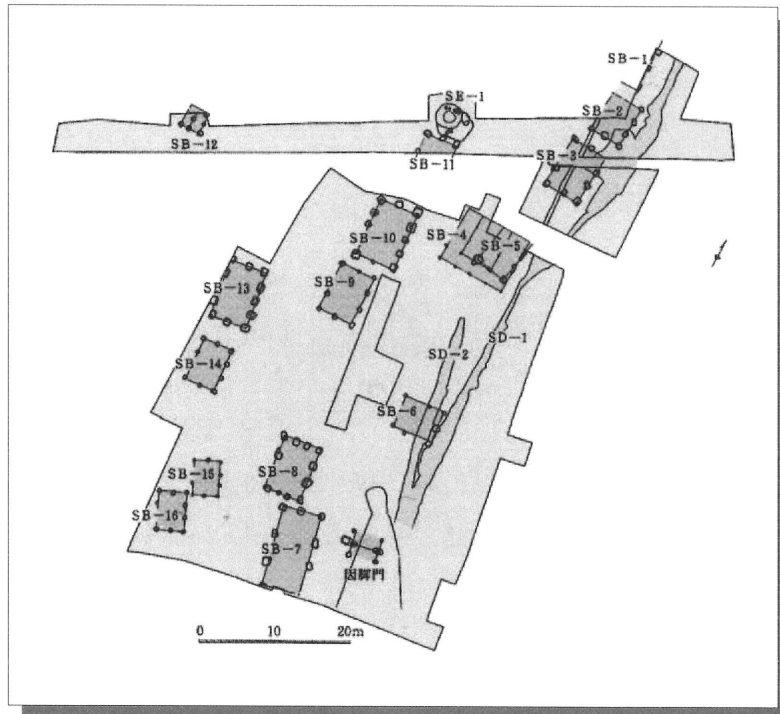
掘立柱建物には、倉庫や土間がある建物、庇が三面につく格式の高い建物が含まれ、これらの建物は、ほぼ南北方向に整然と並んでいました。また、長さ約9m、幅約5mの規模で、固く踏みしめられた状態の、小石を敷き詰めた道路状遺構も確認されました。

建物群を区画する南北の溝からは、須恵器の坏身、皿、碗、円面硯^{えんめんけん}をはじめ、土師器^{はじき}などが出土しています。井戸跡からは3点の呪術木簡^{じゆじゆつもつかん}が出土しています。そのうちの1点には、「水水水水水水」「水水水水水水」「水水水水水水」という3行各6文字、合計18文字の「水」の字と、もともと中国の漢時代の公文書に添えられた語句で、悪魔払いの呪文の終わりに唱える言葉とされる「急急如律令」の文字とが組み合わされています。これには、「井戸の水がすばやく永遠に満つるように」、また、「井戸から発生するさまざまな疫病を封じ込める」という意味が込められています。

ある一定期間、多くの建物が並び、掘立柱建物の配置や規模、須恵器、土師器、円面硯などの出土品などから、この地方を治めた郷長の役所・屋敷跡ではないかと考えられています。



呪術木簡



掘立柱建物群



遺物出土状況

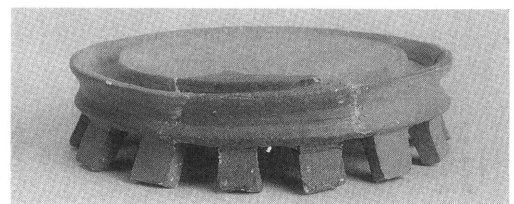


掘立柱建物群

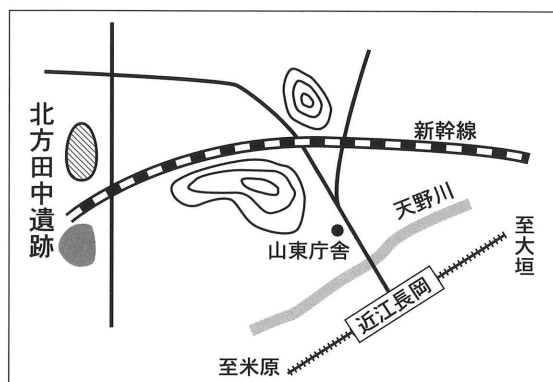
※写真は滋賀県埋蔵文化財センター提供

西代遺跡（志賀谷）

西代遺跡^{にしだい}では古墳時代から平安時代にかけての土器が出土しています。このなかに円面硯^{えんめんけん}とよばれる硯^{すずり}があります。円形で周囲に溝をめぐる独特の平面形をしており、これに脚がついています。円面硯は、役所などの施設の遺跡で多く出土します。西代遺跡の西にある郷長クラスの役所と推定されている北方田中遺跡との関連が注目されます。



円面硯（西代遺跡）



北方田中遺跡

- 所在地 滋賀県米原市北方
- アクセス JR東海道線近江長岡駅下車。バス利用。
※現況は水田です。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-8020
平成24年度 市内遺跡保存活用事業